



スライム
妄想 CG 集



後ろ手に縛られ並ばされた商品達。その下腹部には奴隷の印が刻まれている。

兵種:中級特殊兵

♥ 奴隷商人

襲撃した村・街の人々や戦場で捕らえた将兵に奴隷の印を刻み、商品として連れて行く。

♀ 女性ユニット特効

◆ ユニットの特性

奴隷を表す印を刻み味方を連れ去ろうとする。そのままMAP外に逃がしてしまうとその味方は自軍から消える。

◆ ユニット解説

奴隷売買を専門とした商人。戦場に時折現れ、良い“商品”を見つけてはその場で印を刻み連れて帰る。またこの奴隷商人そのものも雇われることがあり、その場合特定の人物の失脚を狙って奴隷として連れ帰る等の依頼を受けている事がある。奴隷商人に戦闘能力は無いが、雇った傭兵を集団で仕向けてくる。ハイエナのように弱った対象を狙ってくるため、戦いが終わると油断している横から狙われることも多い。



シナリオ・村人救出戦・敗北後

登場敵ユニット・奴隷商人



「いやあああああああああ……」
焼き鏝を押し付けられ、今まさに奴隷としての証を刻まれている者達の悲痛な
叫びが響く。
ここは奴隷商人と雇われ兵達の臨時キャンプであり、大量の「戦利品」を手に
入れた商人と兵達が嬉々として奴隷となった者達を整理していた。



どれも見目麗しく美しい女性や少女達だ。
この奴隷にされてしまった者達は「召喚された異世界の英雄達」だった。
厄災が蘇る世界の危機に異世界の英雄が召喚されるといふ伝承、そしてその伝承に導かれるように美しい金髪のアルトリア国の皇女リアンは英雄達と出会った。

そして世界を救うため、元凶を討ち取るために進軍していた皇女リアンと英雄達は、その道中で奴隷商人率いる兵達に襲われている村を発見した。

彼女達は助けようとしたが、様々な不運が重なり彼女達は返り討ちにあってしまった。そして村の人間もとも奴隷商人に捕まってしまうのだ。



また幼い容姿など特別な需要を満たす者達も分けられ並ばされている。

物を整理するように整列させられた皇女と英雄達。
奴隷の印を刻まれている者、刻まれるために列に並ばされている者、
そして既に刻印されてしまった者達が並んでいる。



その中に交じって既に奴隷の刻印を押され整列していた皇女リアンと英雄アックア。彼女達は目隠しと乳首ピアスを穿けられ列に並ばされた。その乳首ピアスは既に買収の手が決まった証だった。それを聞かされ、恥も外聞もなく謝罪をし、許しを乞い、泣き叫ぶリアンとアックアだった。



その後、皇女と異世界の英雄達は各地に売られていった。
娼館に売られた者、個人的に買い取られた者、そして運よく救出された者
でも、
下腹部に刻まれた奴隷の印が消えることは無い。

戦いの最中に調教され抵抗できなくなった者達が四つん這いで足蹴にされている。それはみせしめとして十分すぎるほど効果があった。



兵種:下級特殊兵

人馬調教師・調教された牝馬

戦場で将兵を捕え、その場で乱暴な調教を行うユニット。

女性ユニット特効

◆ユニットの特性

このユニットに倒されると、その味方は【調教された牝馬】という騎乗ユニットに変化させられてしまう。

◆ユニット解説

捕らえた対象を羞恥や屈辱によって屈服させ調教する兵種。ほとんどが傭兵くずれや盗賊であり、お楽しみ優先で調教の技術も低い。それ故に人権を無視した乱暴な扱いによって捕虜を恐怖心や力で屈服させることができる。

調教され屈服してしまった捕虜は戦場に連れ出され、その無様な様子を晒すことによって敵の士気を下げる役目を持つ。その際に人馬として扱われることが多い。



シナリオ..大司教護衛任務・失敗

登場敵ユニット..人馬調教師

「ふ、むぐっ！」

いまだ怒号と剣が交わる戦いが続くこの場所で、ぐぐもった悔しそうな声が響く。その声の主達の服はポロポロに破かれ恥部が露になっており、みな一様に轡を噛まされ四つん這いにされていた。そのなかには乱暴に足蹴にされている者もいる。

この者達は士官学校の生徒・教師達だ。セイロス教の大司教レアを護衛するという実地訓練を兼ねた任務中に盗賊達に襲撃をされたのだ。

学生とはいえほとんどが名家の出身であり、相応の訓練を積んできた者達である。盗賊程度の相手など簡単であるはずだった。しかし物量で徐々に押し込まれてしまっており、敗れた者はこうして捕らえられ見せしめのようにされていた。





「むぐ、ぶ、あつ、あなたたち…後悔させてあげ、あぶつ！むぐ、む！」
露になったお尻を乱暴に足蹴にされながらも強気に抵抗するこの少女の名前はエーデルガルト。
士官学校のクラスの一つ黒鷲の学級の級長を務め、歴史ある帝国の皇女であり次期皇帝でもある。
いまだ抵抗するエーデルガルトの姿に嗜虐心をくすぐられた調教師の男は懐から銀色のピアスを取り出し、
彼女にソレを無理やり装着した。
「むぐうっ！？……っ！……！」
一瞬何をされたのか分からなかった彼女だったが、痛みと自らの乳首に付けられたモノを見て信じられないといった表情を浮かべ、怒りに身体を震わせた。

その光景をみた他の男達は真似をしてそれぞれの戦利品に「装飾」をしていき、争いの音に交じって少女たちの絶叫が響き渡る。

そんな周囲の光景に絶望しながらもエーデルガルトは諦めていなかった。
護衛対象の大司教レアこそ、強大な力を持つ切り札でもあるのだ。
だが彼女は知らなかった。
大司教レアは戦いの最中で既に、淫紋洗脳術によって従順な僕として捕らえられてしまっている事を。







ピアスをつけても翫っても抵抗する意志を見せるエーデルガルトと彼女の教師であるベレスに業を煮やした男達は身近にいた洗脳術師を呼び出した。
「んぐっ!?!ん……………」



数十分ほどの時間が経過しいまだ戦いが続くこの場所で、一度敵兵に連れられていったエーデルガルトとベレスが再び敵兵に跨られるようにして前線に戻ってきた。



さつきと打って変わって人馬として美しい姿勢を見せる、2匹の牝馬がそこにはいた。そこには人馬として主のために働くというはつきりとした意志すらあった。自分は人馬としてご主人様のために働かなければならないという意識を植え付けられた彼女達は、その様を嘲り笑う男達の顔と反対に至極真剣な顔を浮かべていたのだった。



その後彼女達は戦場でその恥ずかしい姿自らの役目として晒し続けた。
しかし、味方の援軍が到着すると戦況は一変。大司教レアを含め全員が救出される。

だがこのような事態や失態を漏らすわけにはいかないと、口外が禁止されることとなった。
消せない生々しいピアスや調教の痕を残したまま。



戦技【降伏勧告】によって跪いた大司教。神に等しき存在でも、ゲームシステムによる確率は防ぐことができない。

兵種:最上級特殊兵

カリスマ将校

圧倒的なカリスマと威圧力を持つ将校。
この将が降伏勧告を行えばどんな者でも跪く。

◆ユニットの特性

圧倒的な魅力値と指揮値を持つユニット。戦技【降伏勧告】を持ち、問答無用で相手を跪かせる。

◆ユニット解説

神であれ、皇帝であれ、物語の主人公であれ、その溢れる魅力で跪かせ降伏させる将校。戦技【降伏勧告】は非常に強力で、勧告を受けた相手は、【恐れ多くもこの方に逆らっている】
と思い、あまりの申し訳なさに自ら全裸になりその場で土下座する。しかしあまりに意志が強い者は土下座の姿勢はとるも本当に心の底から服従をしていない場合があり、その時は特別捕虜として牢屋に入れられ“教育”が行われる。



シナリオ…大司教陥落

登場敵ユニット…カリスマ将校

【Foot】
敵カリスマ将校の戦技「降伏勧告」によって跪いた大司教レア。
魅力あふれるカリスマ将校の戦技はその溢れるカリスマ性によって、どのような
人物でも降伏させてしまう。

しかしさすがの大司教レアは服を脱ぎ降伏の姿勢を見せるも、その表情は苦々しく
敵意を見せていた。



「申し訳…いぢまはせんでした」
頭を下げ土下座をするも、その声は歯切れが悪い。
戦技の効果が薄く、彼女は心の底から服従してはいないのだ。





再び頭を上げさせるもその顔はやはり敵意をみせており、将校を睨みつけている。
そして「教育」をするために、レアを牢屋にいれるように部下に命令をした
カリスマ将校だった。



レアが牢屋に入れられ、部下に「教育」を行うよう将校が命令してから数週間が過ぎた。

将校は様子を見にレアが入られた牢屋を訪れた。

牢屋を訪れた将校を出迎えたのは誠意溢れる姿勢で跪いたレアの姿だった。かつての凛々しい面影は無く、機嫌を伺うような媚びた表情を浮かべている。

「数々のご無礼、申し訳さありませんでした…。教育をして頂き有難うございます」





「申し訳…いやごまかせないな……」
誠意溢れる見事な上下座を披露するレア。かつての上下座とは意味も見た目も
違うものだった。



その姿を見て頭をぐりぐりと踏む将校。それでもレアはへりくだったまま謝罪をする。
彼女は完全に屈服してしまったのだ。



淫紋を付与され戦場で激しく腰を振りながら卑猥な踊りを披露する王女とその腹心達。

兵種:上級特殊兵

淫紋刻印術師

淫紋術で対象に淫紋を刻印して支配する上級職
対象の性的官能を操作して行動不能に追い込む。

女性ユニット特効

◆ユニットの特性

淫紋刻印術師専用の魔術【淫紋付与】を受けてしまうと淫紋状態になってしまい、数ターン行動不能になる。

◆ユニット解説

対象に淫紋を刻印して性的な官能を支配する。一度刻印されてしまうと術者が任意で解除するか、同等以上の力量の魔術師に解呪してもらう必要がある。
感度を数千倍にして空気が触れただけでも絶頂する身体に変える秘術があり、それをされた対象が激しく踊り狂っているように見えることから、【踊りの指揮者】の異名で呼ばれることもある。

シナリオ・・・不明軍遭遇戦・敗北

登場敵ユニット・・・淫紋術師



「ハッ！邪魔よ！」

戦斧が暴風のように振り回される。それだけで鮮血が飛び散り、屍の山を築いた。

その暴風の中心には美しい女性の姿があった。

暗夜王国・第一王女、カミラである。

「威勢がいい割に他愛もないわね……。それにしても一体どこの軍かしら？」

突如現れた正体不明の軍勢と交戦状態にあるカミラ軍。

しかしカミラは奇襲にも動じることなく冷静にそして苛烈に対処していた。

直属の配下二人を伴い敵を殲滅していく。

そんな彼女の前に魔術師達が立ち塞がる、全身を黒いローブで包んでおり顔は見えない。

「あら？あなた達も可愛がられたのかしらあ……。なら、そこにひれ伏しなさいな」

確かな殺気を込めた妖艶な笑みを浮かべたカミラは魔術師達への攻撃を開始した。

「ほ、おん……」

いまだ戦いが終わらないこの場所で、剣が、鎧が、馬が、ぶつかる音が激しく響いている。そんな戦場の一角で異様な光景が繰り広げられていた。

カミラと彼女の部下であるベルカとルーナが、敵である魔術師の前で見ても無様な恰好を自ら晒していたのだ。しっかりと脚を開いて腰を落としたガニ股の姿勢で、さっさと腕を上にあげて腋を見せている。その視線は焦点があっておらず、正面をうつろに見据えていた。さらに衣服は脱いだか破られたかで恥部を余すことなく晒している。





「あ…お、ほおっ！？ほ、お、おっ、おっ、おっ、おっ、んほおっ！」
魔術師が彼女達の額に手をあて魔力を込めると下腹部の紋章がひかり輝き、
彼女達の様子が一変した。

嬌声をあげながら愛液を噴出し、官能に耐えるようガニ股の姿勢のまま腰を
カクカクと前後に振り始めたのだ。愛液が飛び散るのも構わずに激しく動かか
している。

「ほっ、ほっ、ほっ、ほおっ！」

ガクガクと内股とガニ股を繰り返し、さながら卑猥で下品なダンスを踊っている
かのようだ。
彼女達にとっては脳内をスパイクする官能にそれどころではないのだらうが、
3人同時に踊る様はさながら場違いなストリップショーのようである。



「イクツ、イクツ、イクイクイクッーんおぉおぉおつー」
無様に失禁しながら絶頂する彼女達。
その顔はだらしなく緩み、さつきまでの妖艶さはどこにもない。



「あ、お…おおお…♡」
戦場のど真ん中で卑猥なダンスを踊り切った後、だらしなく涎を垂らしながら
ビクビクと余韻に浸る彼女達。
行動不能となった彼女達はそのまま捕虜となり、この戦いに敗北したのだった。



暴漢達に組み伏せられる弓兵。抵抗むなくしく凌辱されている。

兵種:特殊ユニット

♥ 暴漢・レイバー

弱った女性ユニットに対して集団で襲い掛かる特殊ユニット。

♀ 女性ユニット特効

◆ユニットの特性

戦闘能力はほぼ無いが女性ユニットに対して特効があり、移動力がかなり高い。専用戦技【組み伏せ】を持つ。

◆ユニット解説

民衆や荒くれ者などの集団であり、兵士ではないので戦闘能力はほぼ無い。しかし弱った対象に集団で襲い掛かるので身軽さも相まって時に脅威になる。一度【組み伏せ】されると救出されない限り脱出が困難であり、救出されるまで行動不能&継続ダメージを受け続ける。救出した民衆が時に変貌する事がある。



シナリオ…暴徒鎮圧作戦

登場敵ユニット…暴漢

「あつ！痛つ！……ひつ、やめて、やめてえつ！」

帝国と神聖王国との戦争の最中、とある街の暴徒を鎮圧するために小隊が派遣された。

鎮圧作戦中、暴徒の接近を許してしまつたベルナデッタは組み伏せられてしまふ。

「帝国」様」が気取りやがって……痛い目に合わせてやるよ！おい、取り押さえろ！」

「や、やめる……あつ、ふ、服がつ！」

ベルナデッタも暴れて抵抗するが、何人もの暴漢に押さえつけられ動けなくなつてしまふ。

そうして衣服をビリビリに破かれ恥部が露になつてしまつた。

「いやあ……いやあ……あ、ぶっ！」

恐怖と羞恥で半狂乱になる彼女を無理やり押さえつけて黙らせる暴漢。

血走つた目で歪んだ笑みを浮かべるリーダー格の男は、下半身を露出して自らのモノを彼女の秘部に押し付けた。





「あ……じい……」
顔を鼻水と涙でぐしゃぐしゃに汚しながら茫然とした表情を浮かべるベルナ
デッタ。

「……っ！痛っ！……ひっ！」

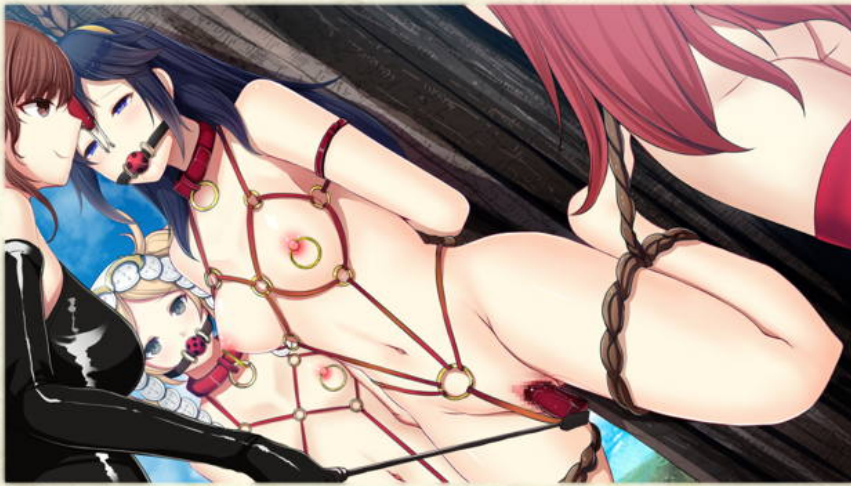
「おいまだ終わらねえぞ、まだ待っているやつがいるんだからよ」

「いや……いや……誰か、だれか、たすけてええええええっ！」

ベルナデッタの悲痛な叫び越えが木霊した。



「ごめんなさい……ごめんなさい……ごめんなさい……」
その後、ベルナデッタは別部隊に救出されるまで凌辱され続けたのだった。全身が汚れ、両乳首にはピアスが通されたその姿は痛々しく、うわごとのように謝罪を繰り返していたと言う。



SM調教師によるマゾ調教。こうしてマゾ奴隷が誕生していく。

兵種:中級特殊兵

SM調教師

捕らえた将兵を調教するスペシャリスト。
どんな相手もマゾ堕ちで屈服させる。

人間ユニット特効

◆ユニットの特性

SM調教師に倒されるとそのユニットは【マゾ奴隷】に変化し、SM調教師のダメージを庇うようになる。

◆ユニット解説

人を調教するという事に関してとびぬけた技術を持つユニット。特にSM調教に秀でており、どのような人物でもたちまち従順なマゾ奴隷に仕上げてしまう。マゾ奴隷となってしまった者はご主人様である調教師に罵られることが悦びとなり、ご主人様に害が及ぼうとしている時は率先して盾になろうとする。また、マゾ奴隷は恥部を全て晒した赤いボンテージがコスチュームである。

「膠着状態か…」

ここは戦場、広い平原を挟んで両軍が対峙している。時折小競り合いをしているが、両軍とも決定打がなく膠着状態が続いている。

「ルキナ達が奇襲部隊として動いてくれている、そうすれば横から崩すことができるだろう、頼むぞルキナ…！」

この戦いはルキナ率いる奇襲部隊に託された！。

一方戦場から少し離れた場所。

「フーツ、フーツ、フーツ！」

一人の少女が縛られ木に括りつけられていた。鼻息荒くなじかに必死に耐えているようだ。

彼女の名前はルキナ。敵軍を奇襲するために別動隊を率いていた人物である。





露にされたルキナの前に黒いボンテージ服を着た女調教師が現れる。

「お待ちせ、ルキナちゃん：ココの調子は如何かしら？」

「フワッ、ふわっ！？」

調教師が鞭でルキナの秘部に挿入されたモノをつつく。そしてルキナは耐えるように全身を震わせた。

「私の調教でもう全身性感帯みたいになつてはすなのによく耐えるわね、ほら繩の食い込みすら気持ちいいでしょ？」

もうかなりの時間イかせてもらえず、生殺しの時間が続いている。それでもルキナは屈服していなかった。

「そっこのほうが私も調教のしがいがあるのだけど、フワッ、ルキナちゃんに見せたいモノがあるの」

そういつてルキナの目隠しをはずす。

「出てきなさい、私の可愛い雌豚達」

目隠しを外されたルキナが見たのは、かつての仲間達だった。
リズとティアモ。彼女達も赤いボンテージを着せられている。

「この子達は私の雌奴隷宣言をしたわ、嬉しそうにお尻を振って私の足を舐めながらね」

ルキナの目が驚愕から絶望に変わる。羨ましそうにこちらを見る発情した様子の
リズとティアモを見て、調教師の言葉が嘘ではないことが分かってしまったのだ。

「お、ふうん!?」

再び鞭で叩かれるルキナ。





「ほらあ、ルキナちゃんも意地はつてないで素直になりなさいな。そうしたらあ…」
息がかかるほどに顔を寄せて、

「たっぷりいたぶって気持ちよくイかせてあげるわよ」
そう囁いた。

「のっぴいっ…」
たっぷり…気持ちよく…、ルキナの脳内に調教師の声が浸透していく。

（イキたい…だめ、こんなの…でもイキ、たい、イキ、たい、イキ、たい、イキ、たい、イキ、たい！）

ルキナは限界だった、いや既に限界は越えていた。しかし仲間達と使命の事を
思うと奮い立てたのだ。
しかしその仲間達はもう堕ちてしまった。

ルキナは自分の心が折れたのが分かった。

「てっするっ私の雌豚になるって誓った」

その調教師の言葉に、悪魔の囁きに、極上の快楽への招待に、
ルキナは頷いてしまった。



「アハハハハッ!、よく言えましたあっ!」
バシーンとルキナの性感帯に向けて鞭を振り下ろす調教師。

「ふんっ、ふんっ、ふんっおおっ♡」
タガが外れたかのようにもたらされる痛みという快感に縛られたままクネクネと身体を揺らし悦びを表すルキナ。弱い箇所を的確に責められる度に愛液が溢れ地面に落ちた。



「いやらしい！雌豚に！ご褒美よっ！受け取りなさいっ！」
バシーン……

「ふ……おおおおおおお……♡♡♡」

涎と愛液を垂らし、白目をむきかけながら絶頂するルキナ。
その姿を見てリズやティアも愛液を垂らしながら心底羨ましそうに太ももを
すり合わせモジモジしている。

「ふおおおおお……♡ふおおおおお……♡」

「ウフフフツ……また私のコレクションが増えたわ、しばらく退屈しなくて済みそう」

その後、ルキナと仲間達は「ご主人様」に洗いざらい情報を喋り、その結果
ルキナを信じて待っていた味方軍は敗北したのだった。



整列して姿勢良く一斉に敬礼を披露する洗脳兵士達。

兵種:下級特殊兵

洗脳兵士部隊

捕虜となった人物達が洗脳術師の手によって洗脳兵士となり、それを集めた低級部隊。

◆ユニットの特性

いままでの戦いで洗脳術師に敗北した味方がいた場合にMAPに登場する、洗脳によって変化したかつての味方である敵部隊。

◆ユニット解説

洗脳術師の魔の手によって捕虜となった人物が徹底的に洗脳を施され、専用の服を着た洗脳兵士となった姿。

絶対的な忠誠心を植え付けられているので、元の人格を維持しつつも忠実な下僕として生まれ変わっている。

しかし戦闘能力は低下しているため、もっぱら盾役として使い捨てられるか、兵の士気をあげるための"玩具"として扱われることが多い。



シナリオ・部隊編成・洗脳兵

登場ユニット・洗脳兵士隊

「整列！」
ENTER ROOM

兵士長の男の号令で統一された衣装を身に着けた女性達が整列する。その姿を見て兵士長はおるか周田の男兵士達も嘲り笑った。

彼女達は戦いの事など一切考慮されていないような露出の多すぎる恥ずかしい衣装を身に付けていた。しかしそんな彼女達の表情は多少の羞恥心はみえるものの、忠誠心溢れる表情は真剣そのものだ。

整列する女性達はいずれも、いま女性達を並べさせている男兵士達の敵であった者達である。洗脳を施され使い捨ての洗脳兵として前線の末端部隊に送り込まれたのだ。





その中には、セイロス教の最重要人物や帝国の次期皇女などいたが、皆一様にただの「兵士」になっていた。

兵士長は訝めるような視線で洗脳兵達を見回る。
「全員名前と……そうだな、改めて忠誠を誓ってもらおうか」



「洗脳兵25番ドロテア、忠誠を誓います!」

「洗脳兵26番エーデルカルト、忠誠を誓います」

「洗脳兵27番ベトラ、忠誠を誓います」

「洗脳兵31番フレン、忠誠を誓いますわ!」

「洗脳兵32番レア、忠誠を誓います」

「洗脳兵33番カトリ、忠誠を誓います」



ビショと乱れのなら動きで再び敬礼をする洗脳兵達。

「クククッ、よしそなたは…服を脱げ、ゆっくりとな」
ENTER ROOM



命令通りに服を「ク」脱いでいく洗脳兵達。



全て脱ぎ終わった洗脳兵達は再びビショと敬礼をした。忠誠心溢れる真剣な顔を
しているが、さすがに顔が赤く、またゆくりと肌をざらして脱いでいる時の
周りの視線を感じたのか愛液を垂らしていた。

「どうだ、それでいい、どうやら忠誠心は本物のようだな」

「……」

兵士長の言葉に感動したかのように身体を震わせより一層引き締まった
姿勢になる洗脳兵達。

これから彼女達は、本来なら地位も身分も能力も格下の者のために全てをかけて
尽くすだろう。
植え付けられた忠誠心のおもむくままに、敬愛する兵士様のためだ。



勇ましく、そして凛々しく戦場に立つ皇帝と副官。しかしその姿は滑稽であった。

兵種:中級特殊兵

催眠術師

催眠術で攪乱を行う兵種。相手の認識を変えて鎧を脱がせたり、敵と味方を誤認させたりする。

女性ユニット特効

◆ユニットの特性

催眠攻撃によって認識を変える事ができ、鎧を自ら脱がせたり
同士討ちを誘導してくる。

◆ユニット解説

催眠術による攪乱を行う兵種。大がかりな事は気づかれて
しまうためできないが、対象の認識を変えて鎧を脱がせて
防御力を下げたりと小さな攪乱を行う。

そのためスパイとして自軍に紛れ込んでいると非常に
厄介である。もし戦場で戦う相手がみんな裸で構えていたら
それは催眠術師が仕事をしていると正しいだろう。



シナリオ…**辺境侵攻作戦・勝利**

登場ユニット…催眠術師

「この場所は必ず押さえておかなければいけない！」

今この世は戦争状態にある。
皇帝エーデルガルトが起こした世界に対する反旗、帝国の侵攻だ。
学校を離れて5年、かつての学校級長エーデルガルトは皇帝に即位してから、
自らの目的のために領土侵攻をしていた。

今回は主目的である神聖王国侵攻とは関係が無く、特に戦術的にも重要ではない
辺境の地に侵攻していた。しかも皇帝自らが選抜して指揮する小軍での侵攻だ。
その行動を疑問視する家臣もいたが、皇帝エーデルガルトの命で逆らえる者は
いない。

やがてたどり着いた目的の地。なんの変哲もない寂れた砦がある。だけで何も無い。
しかしエーデルガルトは真剣にその場所を見つめている。

そして砦から男達が数人できた。恐らく砦をめぐらにしていた盗賊崩れだろう。
何事かと驚いている。

たった数人の敵、こちらは50人ほどの部隊。
しかしこれを「**差し迫った危機**」であると判断したエーデルガルトは兵の士気
をあげるため、副官を伴って列の先頭に躍り出た。



「兵達よ!! 怯むな!! 侵攻を開始せよ!!」

兵列の前に躍り出たエーデルガルトとその副官を務めるリシテア。勇ましい号令と凛々しい顔が兵たちの目を惹いた。しかしその服装はあまりにも場違い過ぎた。

しかも彼女の周囲にいる「皇帝エーデルガルトが「自ら選んだ兵士達」はその命令を聞くそぶりも無く、それどころか主君をあざ笑うかのような表情を浮かべている。



しかしエーデルガルトとリシテアは兵達に対して憤慨や疑問を覚えることはなかった。

彼女達は今催眠状態にあった。帝国に従属しながらも密かに反抗していた貴族が送り込んだ催眠術師によって5年もの期間をかけて、少しずつ認識をすり替えていき、今回に至った。このなにもない場所に侵攻をしたのも全て仕組まれたことであり、催眠の効き目を確かめるためのモノであった。

エーデルガルトが自分で選抜したと思っ込んでいた味方兵士達は全て、帝国並びに皇帝エーデルガルトに不満を持っている兵士達である。さすがに大きく逸脱した事をしてしまうと感づかれてしまったため術師に禁じられているが、行軍中こうして滑稽な様を見て楽しんだり、**ちよっとしたスキンシップ**をしていた。

そして戦いがあつげなく終わり、なんの変哲もない場所を占領した皇帝エーデルガルトは、その恥ずかしい恰好のまま勝開の声をあげた。その拍子に衣装がずり落ちて全裸になってしまっている事にも気づかずだ。



戦いが終わり屋外キャンプで自軍領地に帰るためのエーデルガルト・リシアアの二人だけの軍議の最中、ある人物がそこを訪れた。件の催眠術師である。

ずかずかと皇帝に近づいてくる不敵な態度、不敬としてその場で処断されてもおかしくはない。しかしエーデルガルト達はその催眠術師の男の姿をみつけると、衣服を全て脱いで全裸になり、姿勢を正しくした。彼女達自身も何故そうしたのかは分かっているが、ただこうしなければならぬと思っている、こうするのが彼女達にとって当たり前なのだ。



その後彼女達は何事も無かったかのように自軍領地に帰還した。その裏でなにが行われていたのかは催眠術師とその行軍に参加した兵士しか知らない。



出会ったばかりの男と身体を重ねる教師。それはまるで恋人同士のようにであった。

兵種:下級・中級特殊兵

♥ 魅了術師・魅了淫紋術師

魅了魔術で異性を操る兵種。洗脳とは違い、相手の好意に依存した魔術のため、効果のほどは術者の魅力次第。

✿ 異性ユニット特効

◆ ユニットの特性

魅了魔術によって異性を誘惑し、攻撃を止めさせたり、寝返りを求めたりする。魅力値に差があるほど効果がある。

◆ ユニット解説

魅了魔術によって異性を虜にしまう魔術師。

効き目には個人差があるが、術者によっては支援会話CからSまで一瞬で上昇するほどの効果がある。

上位ユニットとして魅了淫紋術師が存在し、こちらは魅了術で誘惑した者に淫紋術を仕掛けることによって完全支配と言えるレベルまでに依存させることが可能になっている。



シナリオ..仕組まれた一目惚れ

登場敵ユニット..魅了術師

ここは野営キャンプ。戦いが始まる前、その準備のために設営されたキャンプである。

時刻は夜、その場所を一人の男が歩いていた。誰かを探すようにあたりを見回している。そして目的の人物を発見したのか笑みを浮かべると近づいていった。

「あの、ちよつといいですか？」

男が声をかけた人物の名前はベレス。凛々しい顔つきの美人だ。

「なに？」

話しかけてきた男は一応味方部隊の鎧を着ているが、少し警戒した様子でベレスが答える。

「話したいことがあるんですよ、ついてきてくれませんか？」

男の目が妖しく光った。

「ん、んっ！……入って、くる……っ、はあっ、奥まで入った、わ」

「よく頑張ったね。ベレス。」

野宮キャンプの一つで先ほど声をかけた男とベレスが交わりあっていた。それも恋人のように手をしっかりと繋いで。

出会ったばかりの男に呼び捨てにされても蕩けるような笑みを浮かべるベレス。



「あっ、中で動いてる…っ、あなたをととても感じるわ…」

「ああ、俺もだよ、好きだよベレス」

好きだよ。その一言でたまらないといった表情を浮かべるベレス。男の顔をうつつとりと眺めながら自らも腰をゆっくりと動かした。女と男の情事の匂いがテントに充満していく。



「あっ、あっ、あっ、激しくしたら、だ、めっ！あっ！……も、もうイ、イク、」

「ベレスのイクところ俺に見せてよ……、ほら、ほらっ」

「あ、イク、イクッ、イクウッ！」

男の射精を膣内で全て受け止めて、それと同時に絶頂するベレス。ぎゅっとしっかかりと手を繋ぎながら官能に耐えるように身体を小刻みに痙攣させている。その表情は幸せに蕩けていた。





「はあっ、はあっ、もっつと、もっつと欲しいの…あなたを感じたいのっ」

その瞳にさらに愛情と情欲を宿らせ男を求めるベレス。男に夢中の彼女は自身の身体に起き起きている変化に気づいていない。

「フツ、もっつともっつと愛してあげるよ。もう戻れなくなるくらいにね…ほら、脚を開いて」
男は内心ほくそ笑みながらも、ベレスの求めに応えていった。



「く、ふうっ！、あやつは一体何をしておるのじゃっ！そのような男相手に……うぐうっ！」
ベレスに宿る内なる存在ソテイス。男が行使した魅了の術はソテイスにまで影響を及ぼしていた。
衣装が消失し、男のいう通りに脚を開く姿勢をとってしまったている。
彼女自身がそうしたいわけではない、身体が言う事をきかないのだ。
いまだ男と愛し合っているベレスと重なるようにビクビクと快感が伝わり、愛液が滴りおちる。



「このままではだめじゃ…目を覚ますのじゃー早くーんほおおっ!？」
ソテイスに頭が真つ白になるほどの快感が突き抜けた。その元となったのはお尻の快感。
お尻の穴を全力で擦られる快感にソテイスは何も考えられなくなる。
「お、おほっ!?! なんじゃ、これはああっ! あやつら、んほ、なにを、しておるのじゃっ! あふうっ!」
舌を突き出し、腰を跳ねさせながらビクビクと痙攣する。しだいに意識が朦朧としてきたソテイス。

「はひゆ、はひゆうっ!、気持ちいい…好き、好きなのじゃ、もつと、もつとお…」
そしてベレスとの思考が重なり、ソテイス自身も魅了によって虜にされていく。

「おかしく、おかしくなるのじゃあっ!、好きー、っ!そんなわけ、あっ♡でも好きなのじゃっ!」

錯乱した意識で訳も分からず叫ぶソテイス。



「イク、イクのじゃっ、イク、イクッ、イクッ！イクウウウウッ！」
全身を反らし盛大に絶頂するソテイス。彼女の身体にもまた変化がおきた。
彼女もまたベレスと同じく、魅了されてしまったのだ。



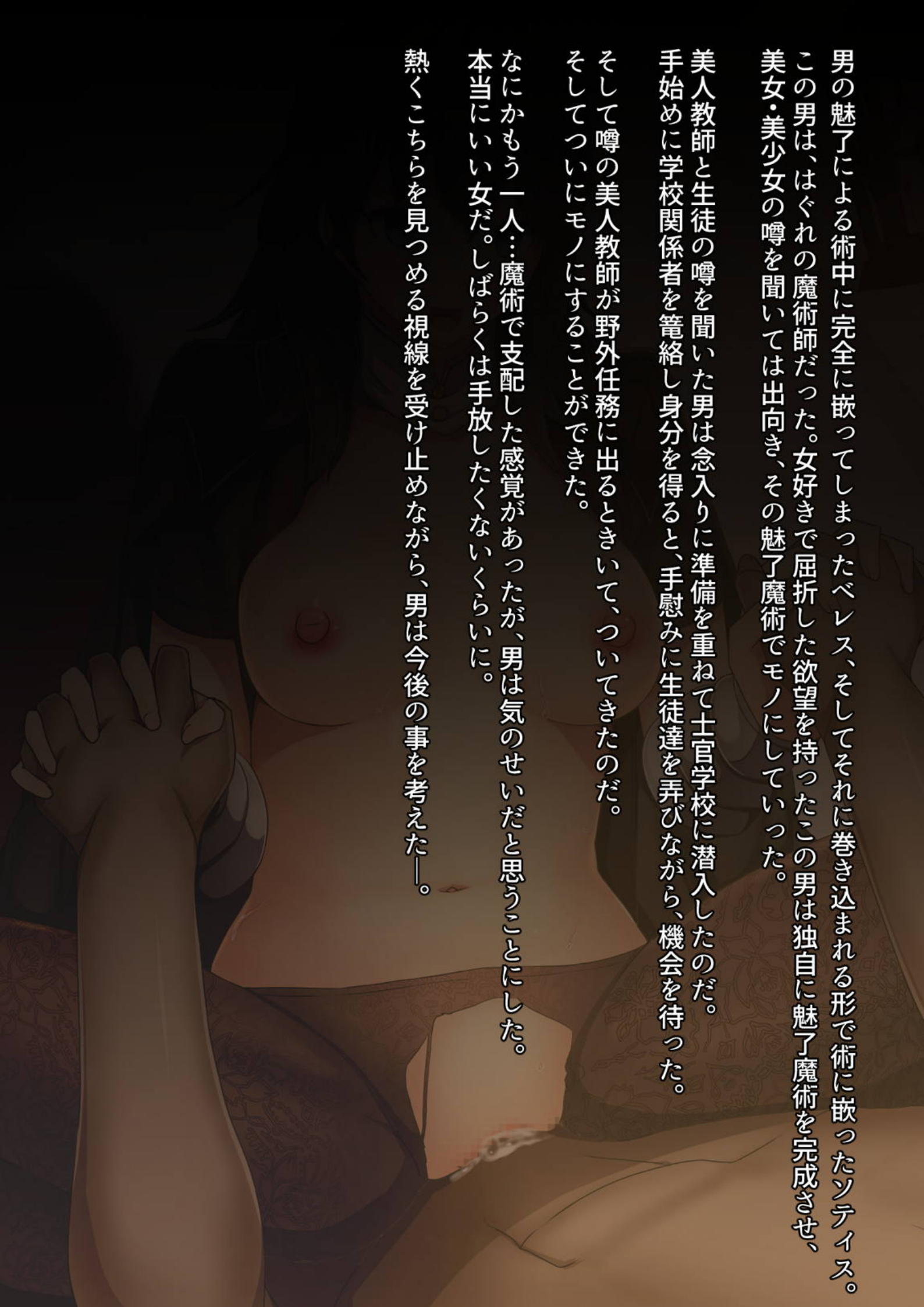
「はあーっ♡はあーっ♡、好き、大好き…♡ちゅっ」

一晩中まじりあった二人は熱いキスを交わしながら余韻に浸っていた。

「俺もだよ、それよりさ…俺の言う事なんでもきいてくれるよね？」

その言葉にベレスが蕩けた顔で肯くのを見た男は歪んだ笑みを浮かべながら彼女にキスをした。

「はあはあ♡、ベレスよ、主様にたっぷりご奉仕するのじゃぞ…♡なんでも言う事を聞いてあげるのじゃ♡」
ベレスの脳内にそんな蕩けた声が響いた。



男の魅了による術中に完全に嵌ってしまったベレス、そしてそれに巻き込まれる形で術に嵌ったソテイス。この男は、はぐれの魔術師だった。女好きで屈折した欲望を持ったこの男は独自に魅了魔術を完成させ、美女・美少女の噂を聞いては出向き、その魅了魔術でモノにしていった。

美人教師と生徒の噂を聞いた男は念入りに準備を重ねて士官学校に潜入したのだ。

手始めに学校関係者を籠絡し身分を得ると、手慰みに生徒達を弄びながら、機会を待った。

そして噂の美人教師が野外任務に出るときいて、ついてきたのだ。

そしてついにモノにすることができた。

なにかもう一人：魔術で支配した感覚があったが、男は気のせいだと思うことにした。

本当にいい女だ。しばらくは手放したくないくらいに。

熱くこちらを見つめる視線を受け止めながら、男は今後の事を考えた――。



男の策略に嵌りベレスが魅了され男のモノになってしまっただけからしばらくの時間が経った。男は旅に出ると言い、ベレスは全てを投げ捨ててそれについていった。そして今簡易テントの中で一方的な愛を確かめあっている。ベレスの身体にはさらに大きな変化があった。大きく膨らんだお腹、彼女は妊娠をしていた。

そしてソティスの身体にも同様の変化が起きていた。



「イク、イクッ！おっぱい、でちゃうぅ…」
ただ幸せそうに顔を緩めるベレスだった。





「イク、イク、イクウツッ！おっぱい、でるのじゃあ…♡」
もたらされる快感と支配される感覚に顔を淫らに歪めるソティスだった。




捕まってしまったが最後、数刻もしないうちに身体を母体として作り変えられてしまった生徒達。

兵種:魔物

小型苗床生物

女性を触手で捕らえた後体内で母体に作り変えて卵を産ませて繁殖する造られた魔物。

 女性ユニット特効

◆ユニットの特性

この魔物に女性ユニットが倒されると母体として取り込まれ、救出するまでMAP上に小型苗床生物を産み続ける。

◆ユニット解説

女性を取り込み母体として肉体を作り変えて卵を産ませて繁殖する魔物。人工的に作り出された魔物でありその出自は不明であるが、屈折した欲望を持った召喚術師が作ったとも言われている。母体がいる限り無限に繁殖していく能力は脅威であるが明確な弱点が存在し、【男性】にまったく興味を示さずおしる逃げるようなそぶりを見せる事がある。ただ増えすぎると手がつけれないため、早急な対処が必要。



シナリオ…正体不明の魔物

登場敵ユニット…小型苗床生物



「きゃ、きゃああっ！い、いやですわっ！どなたか、どなたかお助けくださいませっ！」

戦いの最中、敵の黒魔術召喚師が気がかりな魔術を行使。そしてぶよぶよとした肉塊の化け物としか形容ができない生物が多数召喚された。人一人を飲み込めるかといった大きさであり、触手を使って這うように移動している。

召喚されたその生物に気圧された生徒達がヌメヌメとした触手に絡めとられていく。生物が口を開くように横に割れると舌のような器官から唾液のような液体を分泌し、たちまち衣服を溶かしていった。

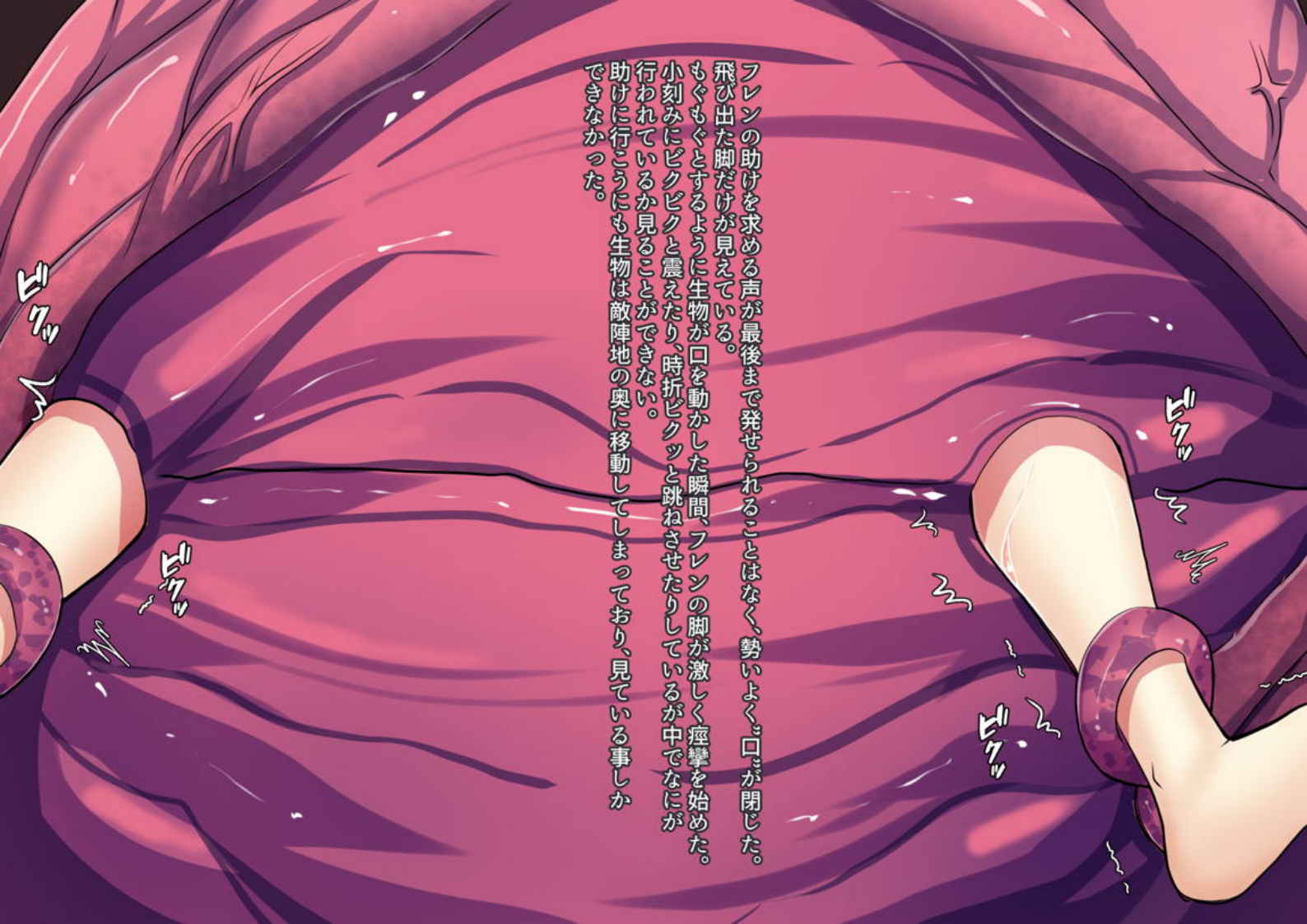
生物に捕まった女性達は皆全裸にされ、分娩台のように脚を開かされる恰好になってしまっていた。

「いや、いやですわっ！いやあああっ！」

恐怖と羞恥からか普段のおっとりとした彼女からは考えられない恐怖にひきつった悲鳴をあげる。



「せ、先生えっ！お、お助けください！」



フレンの助けを求め、声が最後まで発せられることはなく、勢いよく口が閉じた。飛び出た脚だけが見えている。もぐもぐとするように生物が口を動かした瞬間、フレンの脚が激しく痙攣を始めた。小刻みにビクビクと震えたり、時折ビクツと跳ねさせたりしているが中でなにが行われているか見ることができない。助けに行こうにも生物は敵陣地の奥に移動してしまっており、見ている事しかできなかった。



「お、ぶ、ら、あ、あ……」
膠着した戦いの中、生徒達・女性達を飲み込んだ生物が再び前線に躍り出てきて、口を開いた。そこにあったのはたったの数刻で変わり果てた姿になってしまったフレンと生徒達の姿だった。卵を植え付けられてしまっているのか、女性器に挿入された触手と大きく膨らんだお腹、そしてこちらも大きくなってしまった乳房から母乳が漏れ出ている。



「うぎ、いっ!?!い、いやです、わ…産まれ、あああああああ!」
涎が垂らし焦点の合わない瞳を向けていたフレンが唐突に暴れた。分娩台のよ
うに拘束された身体を振り動かし、嫌嫌、と首を振る。そして彼女は産んで
しまった。
この魔物の卵を。

↑……………♡♡♡♡♡……………↑
想像を絶する体験だろう。しかし彼女は首を大きくそらし、官能に頭を真っ白に
させていた。

彼女の身体は作り変えられてしまったのだ、卵を産むための母体として。

彼女は生物の体内で分泌された媚薬成分に全身が漬けられた事で、卵を産むこと
ですら快楽を得られるようになってしまっていた。



そして産んだ卵はすぐに孵化し、恐るべき速度で成長を始め、数分後には新たな
苗床生物が誕生した。
その生物があらたな母体を捕まえ、その母体が卵を産み、そして――
召喚された苗床生物が、戦場を蹂躞していく。



戦場を蹂躪したこの召喚された苗木生物。
一見無限に増え続ける無敵の生物に思えるが、男性に一切興味を示さない
ということが分かったため、早急に男兵士が集められ術を行使していた
召喚術師が倒されたために、生物たちは消滅した。
苗木にされた女性達は救出されたが、身体を作り変えられ媚薬漬けにされて
しまった彼女達の今後の運命は誰にも分からない。



死守すべき砦の門が内側から開き、出てきたのは無様な姿を晒す王女達であった。

兵種:上級特殊兵

捕虜輸送木馬隊

戦場で捕らえた将を輸送する騎乗部隊。

捕らえた姿を晒すことで、兵士の士気を下げる。

女性ユニット特効

◆ユニットの特性

奴隷商人と人馬調教師の特色を併せ持つ上級騎乗ユニット。

◆ユニット解説

連結することができる特殊な車輪付きの三角木馬を駆使する騎乗部隊。捕らえた将兵を木馬に乗せて拘束し輸送する事がこの部隊の目的であり、またその姿を衆目に晒す事で味方の士気を上げて敵の士気を下げることが部隊の役目でもある。そのため輸送木馬は拷問としての苦痛よりも羞恥心に喩ぐように設計されており、晒される捕虜はより“見栄え”が良くなるように装飾がされる。



シナリオ・籠城戦・敗北

登場敵ユニット・捕虜輸送木馬隊

「ここはなんとしてでも守り通せ！陣形を大きく崩すな！」
名もなき兵士が激励を飛ばす。

膠着状態の籠城戦。守りに長けたこの城を崩すのは容易ではない。城の外で敵軍と小競り合いを続けながら、兵士は自分を奮い立たせた。彼の脳裏に思い浮かんだのは、この軍の指揮官でもある美しい王女の姿。あの方達のためならいくらでも戦える気分だった。

「援軍がくるまで持ちこたえろ！なあと大丈夫さ正門が破れなければ」

そう言った兵士長の元に信じられない報せが届く。
そして難攻不落の正門が内側から開けられたのだった。



「門を開けろ！」

いまままで守っていたはずの門が内側から開けられた。そして姿を現したのは、奇妙な形の馬を模した乗り物に乗せられた王女達の姿だった。

彼女達は全裸に近い恰好になっており、まるで見世物のようにガラガラと大きな音を出しながら移動している。

この戦いで兵士達が守っていた城内では陰謀と策略が行われていた。

大臣の裏切りで秘密裏に城内に侵入していた敵軍によって既に王女たちは敵の手に落ちてしまっていた。

つまり城の侵入者にあっさりと敗北した王女達は、外で兵士達が必死に戦っている間に、たふぶりと薬を使って身体を弄られたり尋問されたりしていたのだ。

尋問も終わり身体もしのかりと出来上がった所で、輸送と晒しを目的とした木馬に乗せられて城外に出されてしまった。という訳である。



無様な姿を見せつけるようにゆっくりと移動していく。
しかし、大量の媚薬を盛りつけた女王達はこんな状況でも身体を火照らせ、溢れるほどの愛液を滴りさせていた。
はたからみると翻られて悦ぶ変態のようにも見えてしまう、はたしてこの姿を見た彼女達に忠誠を捧げる兵士達はどう思うだろうか。



王女達を策略に嵌めた大臣が兵士に命令をすると、王女達のそのむき出しの乳首に銀色に光り輝くピアスがつけられた。日光に反射して神々しささえ感じられるが、その無様な姿と相まってより滑稽な姿となっている。

ピアスをつけられた痛みですら快感にかわってしまふ王女達の秘部からさらさら愛液が溢れた。
くつわの端から涎を垂らしつつ、羞恥心と悔しさ、様々な感情が込められた情を浮かべている。



そしてさらに乳首ピアスと彼女達の陰核を結ぶようにきつく紐が張られた。
ガタガタと無路で揺れる度に、そして周囲の敵兵士達がお遊びで木馬を激しく
揺らす度に、彼女達は白目をむきかけながら身体をビクビクと痙攣させ、愛液交じ
りの失禁をした。




城外で戦っていた兵士達はそんな王女様の姿を見て次々と戦意を失くしていった。敵兵たちの嘲りの視線と、味方兵達の失望の視線を受けながら、王女達はそのままだけに輸送されていった。



豪華に着飾りふんぞり返った貴族の前に、全裸で跪かされた王女と歌姫の姿。

兵種:特殊ユニット

 **強欲で無能な貴族**

自信満々で他人を見下している貴族。

財力にモノを言わせ、兵隊を仕向けてくる。



◆ **ユニットの特性**

戦闘能力が皆無であり、また指揮力もないため、脅威はかなり低い。しかし敗北してしまうと一生消えない証を刻まれる。

◆ **ユニット解説**

無能なくせにやたらと自信満々で他人を見下している貴族。自分にできない事はないと思っており、できなかった場合は全て他人のせいにする。また世界中の美女は自分の前に跪くべき事が当然と思っている。

財力があるため兵隊の数は多いが、指揮官としても無能の極みであるためこの貴族に敗北する事はまずないだろう。しかし敗北してしまったら…想像を絶する屈辱が待っている。

シナリオ・・・強欲貴族襲来・敗北

登場敵ユニット・・・強欲で無能な貴族



「カムイ、軍勢が見えるわ」

碧の先に立ちながら、青髪をたなびかせる絶世の美女が言う。彼女の名前はアクア。

「ええ、私も見えます。けど、どこの軍勢でしょうか」

碧に立つもう一人の女性がそう答えた。彼女の名前はカムイ、こちらも絶世の美女である。

両名とも血筋、容姿、能力、そして王族であり特別な存在と全てを兼ね備えていた。徐々にその軍勢の全容が見えてきた。そしてその中から一人馬に乗った兵が飛び出してくる。その兵は一方的に降伏して全面服従するよう喚くとすぐに戻っていった。

「いきなりの挨拶ね…これは礼儀を教えてあげる必要があります」

終始上から目線だった態度にその美しい顔をすこし歪ませるアクア。敵軍を前にしてもアクアとカムイの二人に緊迫感は無かった。

それもそのはず、目で見てわかるほど、軍勢のレベルが低いのだ。動きはまったく統率されていないし、指揮官の装備も見栄えはすっかりで兵達の装備が充実していない。

「仕方ありません、攻めてくるのであれば迎えうちましょ」

カムイは仕方ないとはばかりに頭を振り、その凛々しい顔を敵軍勢に向けたのだった。

しかし彼女達の軍は敗北してしまった。本来敗けるはずのない相手に。

この世界がもしゲームだとして軍勢を動かす指揮官がわざと操作しなかったかのように兵隊が動くことが無く、自軍本拠地砦への侵入を許し、そのままカムイとアクアは討ち取られてしまったのだ。

そしてこの敵軍勢の指揮官である貴族の下へ連れていかれた。

装飾品が溢れる室内。
その中央にある豪華なソファにとつかりと貴族の男が座っている。
醜悪な笑みを浮かべたその視線の先には、
後ろ手に拘束され全裸で跪き、頭を地面に擦りつけた二人の美女：アキラと
カムイの姿があった。

「くっくくっ…当然の結果だな、私に逆らうからこうなるのだ」
その二人の美女の無様な姿をみながらワインを楽しみ、優越感に浸る貴族の男。
彼はなにもしていないのだが、全て自分の手柄だと思っている。

「何かいう事があるのではないかね？お二人とも…」

沈黙を貫いていた彼女達だったが、傍に控える兵士が槍の先端を地面に叩きつけ
た事でビクツと身体を震わせた。
ここに連れてこられる前に「一度」主様に会うための教育」をされた彼女達は、
条件反射で抵抗できなくなっていた。

「申し訳ございませんでした」

「…申し訳ございませんでした…」

「たったのそれだけかね？」

彼女達の謝罪に納得せず、さらに嘲笑う表情を浮かべた貴族の男。傍に控える
兵士が剣を抜く気配を感じた二人は慌てるようにさらに謝罪を重ねる。

「歌姫と呼ばれて調子に乗っていた私は、兵士様に再教育していただき
いかに貴族様に傲慢で無礼な態度をとっていたかを教えて頂きました
大変申し訳ございませんでした！」

「貴族様の素晴らしい恩情である降伏勧告を跳ねのけてしまふ無能な私をどうか
お許しください……大変申し訳ございませんでした……」

二人は時折反抗心からか言葉を詰まらせながらも口上を述べる。それを聞いた
貴族は兵士にある命令をする。そして彼女達の背後に兵士達が立った。



「あ、あ、そんな、そんな…」

「あ、嫌あ…」

彼女達のお尻に刻まれてしまったのは敗北したものの証、負け犬を表す言葉。
一生消すことができない屈辱の印だった。これ以上何をされるのかと恐怖に
震えはじめた彼女達の頭を貴族の男は足蹴にして、その脚を口元に寄せていく。



「れるっ、れるっ、れるっ、れるっ、れるっ……」

「れるっ、れるっ、れるっ、れるっ」

差し出された貴族の靴を必死に舐めながら恐怖に染まった彼女達はこれ以上の事をされないように下手に動く。

負け犬

負け犬





優れた力を持つが故に人体を改造されても自我を失う事が無く、自分の姿とかつての仲間達の姿を見て絶望する神官。

兵種:特殊魔物ユニット

ビグルナイト

魔術師の非道な実験により誕生した魔物と人のキメラ。
【増殖】も備えており、より強力な魔物を【出産】して増える。

◆ユニットの特性

無限に増殖する魔物としての特性と、最低限の人の知性を持つユニット。ターン毎に【ビグル】を出産する。

◆ユニット解説

魔術師の実験によって誕生した、大きな目玉のような魔物ビグルと人の改造キメラ生物。人体改造の際に様々な洗脳や記憶処理を施して最低限の知性のみを残しており、単純な命令を実行することができる。

魔物ビグルの特徴である増殖も兼ね備えており、人部分から出産する事によってより強力なビグルが誕生する。
実験素材として使われた人材によって個体差が大きくなる。



アークビグルナイトとなってしまった神官。その姿はもはや魔物そのものと言える。

兵種:特殊ユニット

アークビグルナイト

ビグルナイトの上位種。

より強かに凶暴に進化している。



◆ユニットの特性

上位種であるこのユニットは、魔物部分の攻撃に加えて人間部分からも魔術を駆使して攻撃をしてくる。

◆ユニット解説

特別な能力を持っていたり優秀な人物が実験素材として使われ、ビグルと完全に融合する事で誕生するキメラ。

優秀な実験素材は人体改造を施しても自我を保ったままの事が多く、その状態で完全に【墮ちる】事によってアークビグルナイトとなる。人としての知性を持つがその本性は動物に近く、命令には従うが基本的に本能で動く。

こちらも実験素材によって性格・能力等個体差が様々である。



シナリオ…人体改造実験の成果

登場ユニット…ビグルナイト・アークビグルナイト

「あ、ああ……ああ……そんな、そんな……」

大きな目玉だらけの魔物達が街を、人を、兵士をすりつぶしていく。人の悲鳴と瓦礫が崩れる音、そしてナニかが潰れる音がそこかしこから響き渡る。目玉の魔物：ビグルと呼ばれる存在が自己増殖しながら暴れまわっていた。しかしそのビグル達の中に異質な個体があった。

その球体に女性が融合しているのだ。そしてビグル達を先導するかのようになっている。どの女性もはっきり意識がないような虚ろな目をしているが、その中でも数人ははっきりと意識があり、今この状況に嘆き絶望していた。

その女性達の一人は、この地の異変を突き止めるために軍を率いて行動していた神官セリカだった。その周囲には仲間達もいるが、みな改造されビグルと一体化してしまっていた。

「……っ……あ、あ、あ……皆、正気に戻って……」

特別な血筋と優秀な能力を持つセリカは、人体改造を受けながらもお自分を保ち意識をはっきりさせていた。しかし身体は自由に動かすことはできず変わり果ててしまった自分と仲間達の姿を見て絶望することしかできなかった。





「んぎいっ！あ、ぐっ、あああああああああっ！」

セリカが融合しているビグルの身体から触手が伸び、ドスっ！と音が聞こえそうなほど勢いよく彼女の剥き出しの秘部に突き挿さった。

全身が侵食される気持ち悪さと全身が溶け合うような気持ちよさに全身を痙攣させる彼女。

「ん、お、あ、あ、ふ、っ、ひふ、ひふ、あふ、ひい、ひい、ひい、ひいっ！」

ビグルの一部が彼女の胎内に侵入していく。それは彼女の胎内で急速に成長しより強力な個体を出産・増殖させようとしているのだ。彼女自身も既に何度か経験していた。しかし今回はいつもと違った。

「おかしくなるっ、とめて、とめて、とっでえっ！とける、とけるのおっ！きもちいいのおっ！」
全身が支配されるような、自分が自分でなくなるような感覚に狂乱するセリカ。

「おっ、おっ、おっ！」

声にならない悲鳴をあげて悶えている内に胎内に侵入したビグルは大きく成長し、
彼女のお腹が臨月のようにふくらんでしまっていた。

「はひ、はひ、はひっ！あ、あああああああああああああああああああっ！」

そして彼女の身体にさらに変化が起きた。





「フフ、フフフ、アハア！」

全身が侵食、適合してしまった彼女は、ビグルナイトからアークビグルナイトへと進化していった。

「アハアアハハハハハッ！」

先ほどまでの愁いを帯びた顔はどこにもない。彼女は無数のビグル達を指揮しながらこの場所をさらに混沌へと導いていくのだった。



人を家畜として扱う調教に屈服した家畜奴隷。その身体はいやらしく変わってしまった。

兵種:上級特殊兵

家畜調教師

捕虜を家畜として調教し無力化する技術を極めた兵種。
人を人として扱わない調教術に屈服しない者はいない。

女性ユニット特効

◆ユニットの特性

人馬調教師の上位ユニット。このユニットに倒された味方の救出に失敗すると【家畜】になり自軍に復帰することはない。

◆ユニット解説

人を人として扱わない苛烈な調教を捕らえた対象に与える兵種。技術が低い人馬調教師に比べ、調教の技術と心理を読み取る技術に長けている。

【家畜】として扱うその調教術にはどのような人物も屈服し自分はどうしようもなく【家畜】であると思うようになる。そして孕まされ優秀な能力や血筋を持つ子を産み、おっぱいを搾られる姿はまさに【家畜】であろう。



シナリオ…白夜王国陥落その後


登場ユニット…家畜

「ご主人様...」
「お待ちしておりました。」

二人の美女がここを訪れた者を出迎える。
美しい黒髪と芯の強さ、年齢と比例するような母性を感じさせてくれるのは王国
の女王ミコト。
そしてもう一人はミコトの娘であるカムイ。
二人ともやんごとなき身分の者である。しかし今のこの状況、見た目、場所全てが
その肩書きとかけ離れていた。

大部屋に臺が敷かれた地面、木の内装が剥き出しのこの場所は、どう見ても人が
住むような場所ではない。そこは家畜となる動物が入られるような場所だった。
さらに彼女達は服を着ていなかった。しかも室内にミコト、カムイの他にも女
達が複数いた。
そしてここに居る女達は全て妊娠していた。





ここは「牝家畜小屋」捕虜となった家畜の中でも、人を人として扱わない調教に
屈服し従順となった家畜が入られる小屋である。

戦いに敗北した女王ミコトと王女カムイも家畜調教を受け、屈服してしまった。

この小屋では従順な家畜として振る舞っていれば鎖に繋がれることも無く、
併設の水場で自由に身体を洗うことができる。

服を着ることはできないが、「外の兵士」様にお願ひすれば散歩に連れて行って
もらうことができた。

二人は家畜となった後も表面上は凛々しいその顔は変わらないが、身体は見てわかるほどにいやらしく変えられてしまっていた。

家畜小屋を訪れた「主人様」に対して率先して前に出る彼女達。

「お慈悲を頂けるのですね、私たちの身体をどうぞ存分に楽しんでみてください」

「言いつけ通りにオナニーをしたっぶり濡らしておきました」

そして二人は身体を重ねるようになり、脚を開いた。直前までオナニーをしていたのである。言葉通りに、その秘部は溢れるほどに濡れている。興奮からか黒ずんだ乳首からは母乳が垂れ始めていた。





「ああん♡私から使って頂けるなんて…ありがたすぎています…んっ♡」
「突きさされただけで女王然たる顔が崩れ、情欲に狂う」匹の牝の顔が表れた。



「あん！♡お○んぽ様きましたあ！♡」
待ち望んだ挿入に彼女も、普段のカムイを知っている者であれば想像すらつかないような牝としての顔を露にする。

「お使い頂き、有難うございました…♡」

「おつかいいただき、ありがとうございます…♡」

快感で息絶え絶えになりながらも、しっかりと感謝の言葉を述べるロイヤル家畜
2匹だった。





彼女達は当たり前の日課をこなしている。彼女達にとっては“常識な事である。”

兵種:上級特殊兵

◆ 集団催眠術師

催眠術師の上位ユニットであり、より広範囲で規模が大きい催眠術を仕掛けることができる。

◆ 女性ユニット特効

◆ ユニットの特性

催眠術師が一对一で術を仕掛けてくるのに対して、こちらは一对多数で同時に催眠術を仕掛けてくる。

◆ ユニット解説

催眠術師の上級兵種。一度に複数の対象に催眠術を仕掛けることができ、入念に準備をすれば小さな街ひとつを催眠の支配下に置くことが可能である。

己の欲望が強い人物程強力な催眠術を使うと言われており、そのような人物が組織に所属することは稀であることから、突如その場所に現れては催眠を使って好き勝手に遊び始めたり、自分が楽しむための空間を作ったりしている。

シナリオ・集団催眠学級の日課
登場ユニット…士官学校・女生徒達




「それでは、始めなさい」
「はい、先生」

修道院併設の士官学校。そこで男教師の下、女生徒達が「指導」を受けていた。
しかしその光景は明らかに異様だった。

しかし女生徒達はまるで日課のように、恥ずかしい事とは分かりつつもそれをする事が当たり前であるかのようにだった。
そんな女生徒達を陰湿な雰囲気を感じさせる「男教師」は下卑た顔で眺めていた。





この男教師はまるでそこにいるのが当たり前かのように突如士官学校の教師として現れた。
その陰湿な風貌や女性を眺めるその視線は教師としてまったく適正を感じられないが、生徒達と教師達、はたや教会の関係者達は疑問を持つことが無いどころか「良い教師」として知られていた。

しかしこの男は教師ではない。邪な欲望を内に秘めた、能力だけを見ると優秀な催眠術師である。

催眠術を使ってこの士官学校に入り込んだ男は好き勝手に催眠の力で常識を改変し、はたからみれば異様な事でも当たり前前の常識となるように少しずつ狂わせて、生徒・教師・関係者すべてを弄んでいた。

「マリアンヌさん、もっと腰を落として脚を開きなさい」
「は、はい…んっ…」

男が気に入った女生徒達を集めて新しく設立した学級。
黒鷲・青獅子・金鹿の女生徒達に加えて学校の美少女達を集めたこの学級では今、
「日課」が行われていた。

朝の自慰の時間。
教師の男が教卓につくと、集まった女生徒達は皆制服を脱いで全裸となった。
脱いだ服を畳んでから椅子に置いて、脱ぎたてのショーツを机に置く。

そして女生徒達全員が顔を赤くしながらも脚を開きガニ股になったのを確認した男が
手を叩くと皆一斉に立ったまま自慰行為を始めた。

この学級ではもはや当たり前となった、「常識的」な光景である。



常識とは思いますが、相当な羞恥心を感じている女生徒達は最初はたどどしく指を動かす。
この「日課」は女生徒達全員がイクことで終わる。
そしてイキそうなときに報告をして、イク時はイクと宣言をしなければならなかった。

また日事に自慰の仕方が変わり、今回は女性器：オ○ンコへの刺激だけでイかなければならない。
女生徒達は乳首を弄れないもどかしさからか、片方の手を所在なさげに身体に這わせている。

そして生徒達の手の動きがだんだんと早く、息遣いが荒くなっていった。



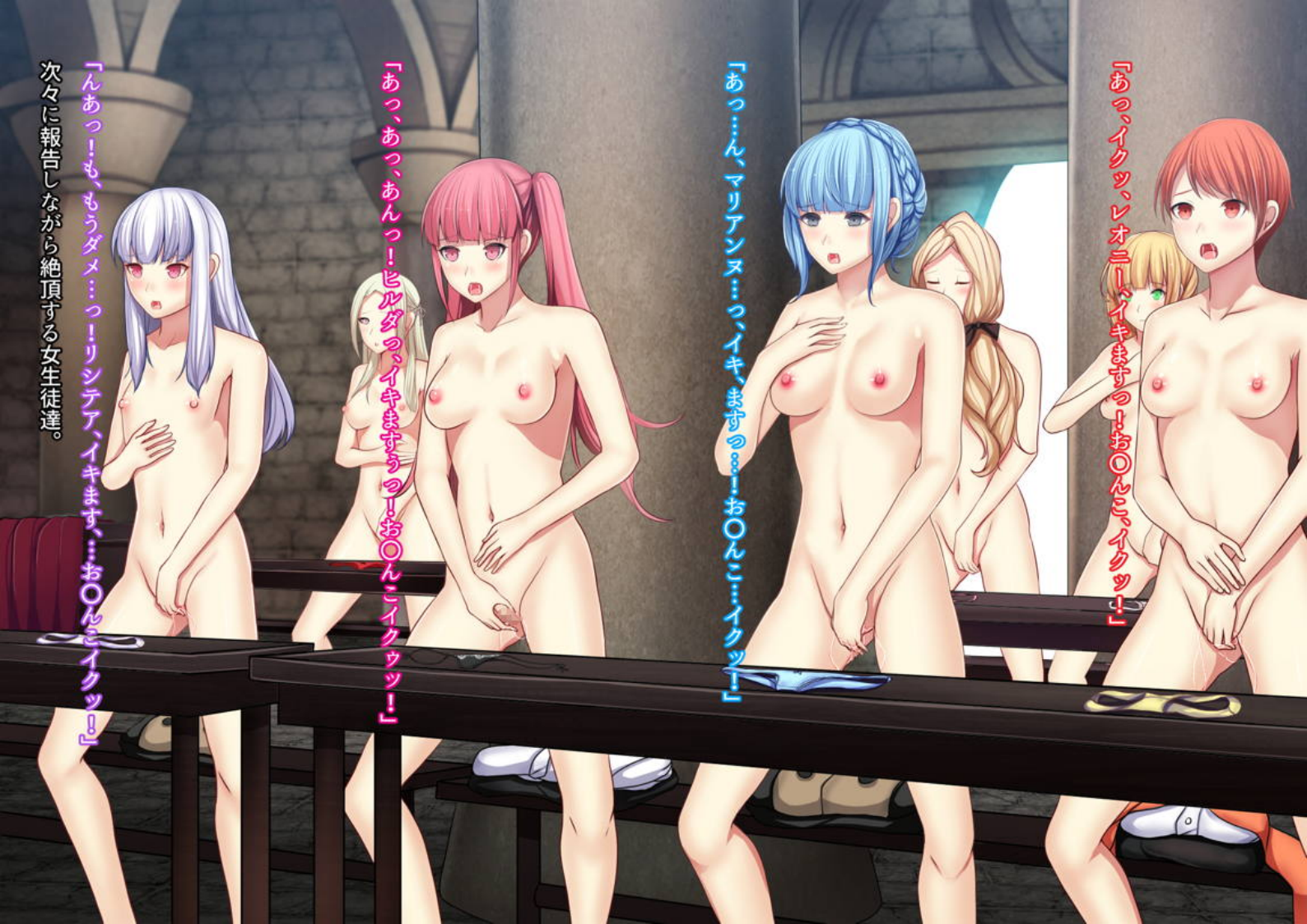
「あつ、イクツ、レオニィ、イキますっ！お〇んこ、イクツッ！」

「あつ…ん、マリアンヌ…っ、イキ、ますっ…お〇んこ…イクツッ！」

「あつ、あつ、あつ、あつ…っ、ルダッ、イキますっ！お〇んこ、イクツッ！」

「んあつ…も、もうダメ…っ…リシテア、イキます、…お〇んこ、イクツッ！」

次々に報告しながら絶頂する女生徒達。





「おほおおっ!?おっ、おっ、おっ♡、んほおおおおっ!!!♡♡」

兵種:上級特殊兵

♥ アナル調教師

その名の通りお尻の穴を調教する事に特化した兵士。
この兵にかかればどんな女性も尻穴でしかイけなくなる。

♀ 女性ユニット特効

◆ユニットの特性

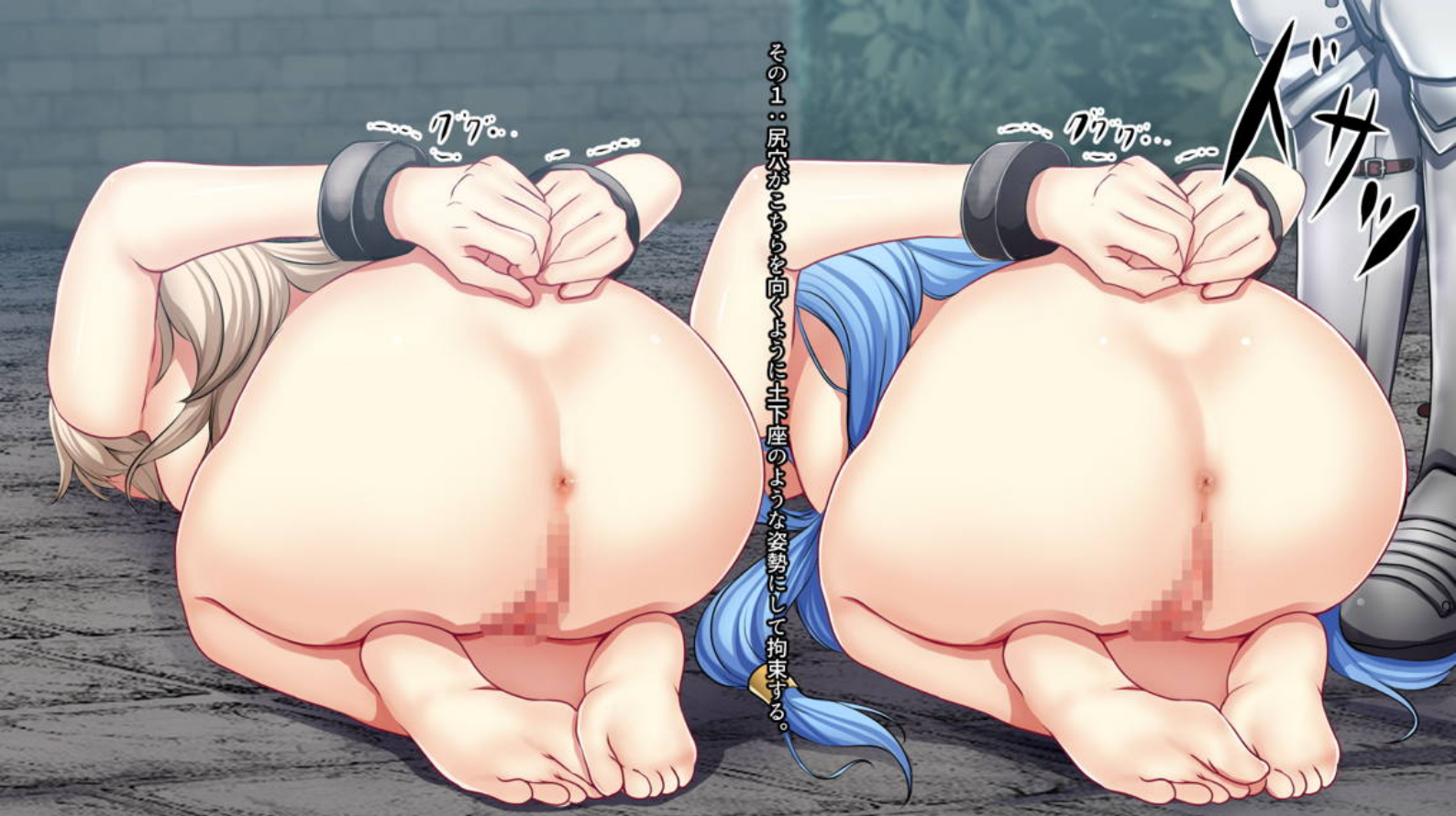
戦技【尻穴調教】を受けてしまうとそのユニットは今後
アナルでしかイけなくなり、排泄の度に絶頂するようになる。

◆ユニット解説

戦闘能力はほぼ無いが、アナルを調教することを極めに
極めた兵士。この兵士にかかればたった数分から数時間で
アナルの刺激以外は物足りない身体に調教されてしまい
排泄などの尻穴に関係すること全てで絶頂してしまうように
なってしまう。もし戦場で【尻穴調教】を受けた女性ユニット
が救出されて、表面上は以前と変わらなくてもその身体は
尻穴狂いに調教されてしまっていると思っていだらう。

シナリオ・戦技【尻穴調教】

登場ユニット・アナル調教師



その1：尻穴がどちらを向くように上下座のような姿勢にして拘束する。



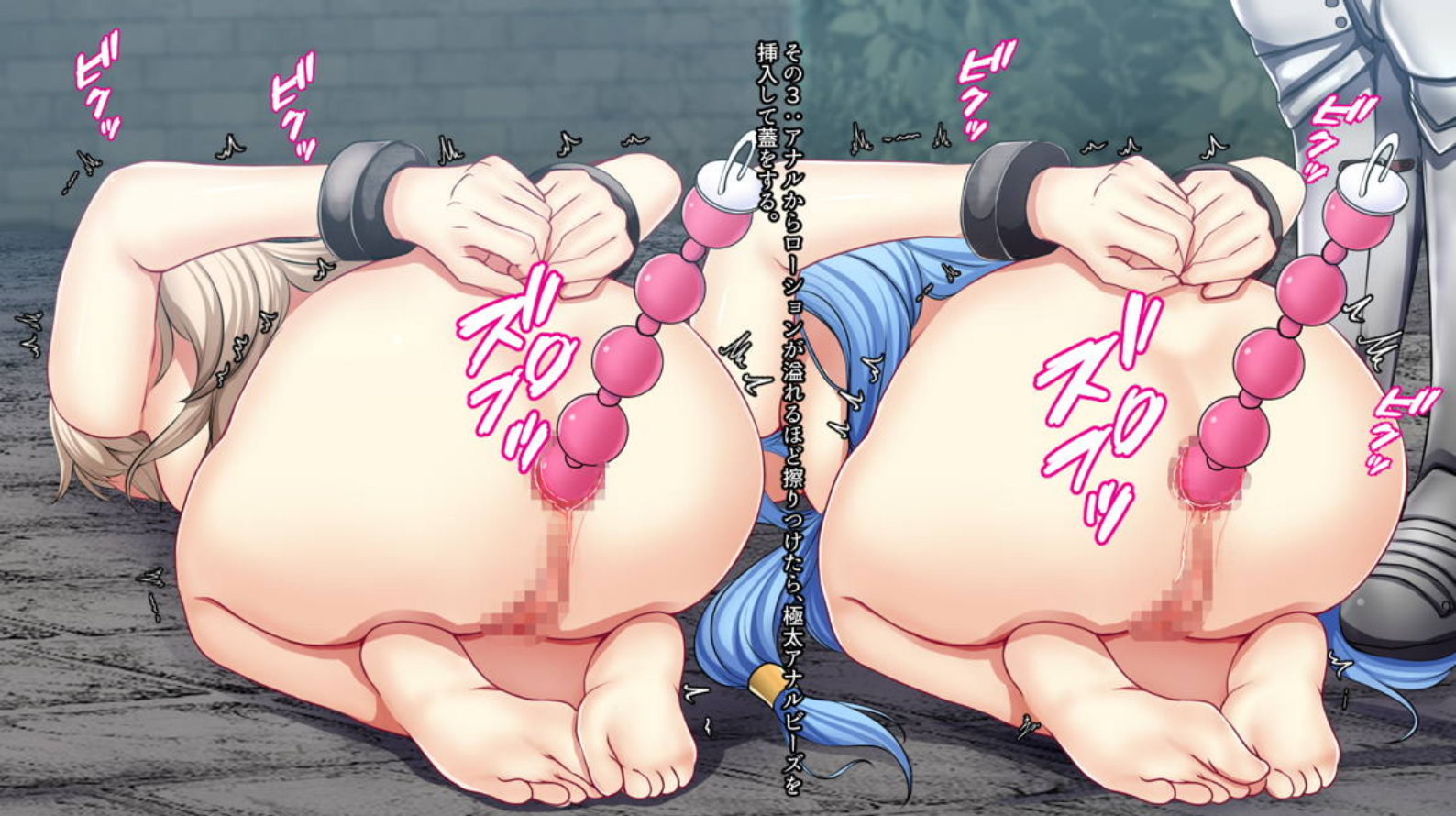
その2:特製の媚薬ローションを対象のアナルの粘膜にたっぷり時間をかけて念入りに擦りつける。

ビクッ

ビクッ

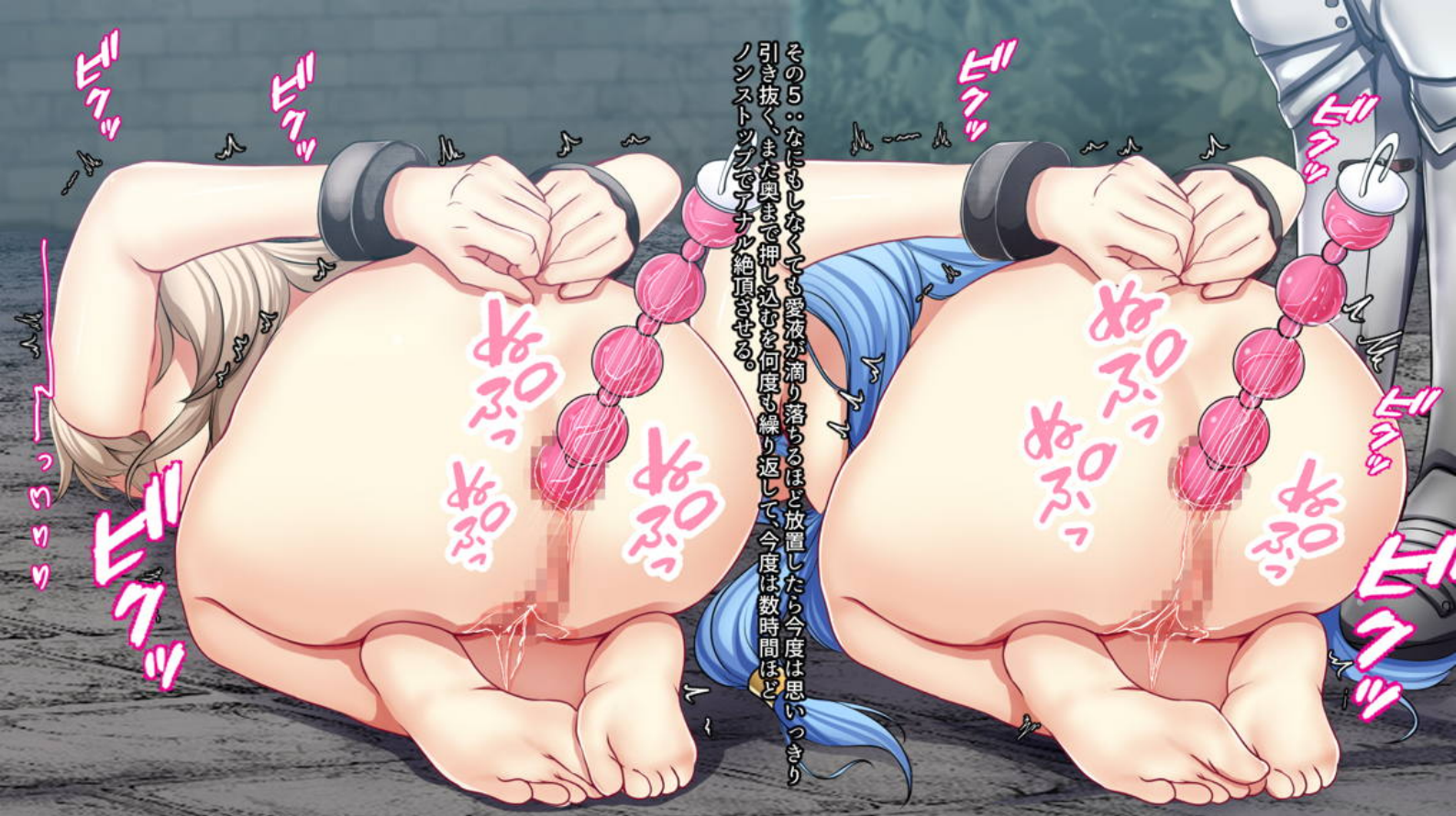
グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ



その4...イかせないようによく注意して、時おりアナルビーズをついたり軽く出し
入れしたりしながら数分ほど放置する。





その5..なにもしなくても愛液が滴り落ちるほど放置したら今度は思いっきり引き抜く、また奥まで押し込むを何度も繰り返して、今度は数時間ほどノンストップでアナル絶頂させる。



その6: さきほどまでの工程をくり返して、アナルをなげればイけす
排泄で絶頂するようになるればアナル調教完了。

h.A



トラップに引っかかり王女姉妹揃って壁に埋まってしまった姿。衝撃で失神をしてしまい、無様に晒された真っ白なお尻を失禁で黄色く染めてしまっている。

兵種:特殊フロア

壁尻魔術トラップ

地面や壁に仕掛けられた魔術トラップ。巨大な手が対象を捕まえて壁や地面に叩きつけめり込ませて行動不能にする。

◆ユニットの特性

魔術師が仕掛ける特殊トラップ。衝撃で失神・身体が抜けず行動不能になる程度だが恥ずかしい姿を晒すことになる。

◆ユニット解説

元はただの拘束トラップだったのだが、このトラップにかかったとある女兵士がとても滑稽な姿で発見されたため、それを見た魔術師が改良し、兵士の間で【壁尻トラップ】と呼ばれるようになった。このトラップに引っかかった者は下半身の衣装を全て破かれた上で地面や壁に叩きつけられる。その結果、下半身だけを露出した状態で埋まってしまう。それが女性であれば…その後どうなるかは想像に容易い。

シナリオ・壁尻魔術トラップ

登場敵ユニット・一般兵士

「それっ！」

戦いが始まった岩の中。
雑兵を文字通りなぎ倒しながら、悠々と歩を進める王女カミラの姿があった。
その美しい肉付きの良い肢体と妖艶な仕草は敵兵士すら魅了する。

「ちょっと待ってよおねえちゃん！私もっ！」

カミラの隣には彼女の妹、王女エリーゼの姿もあった。
小柄で幼い容姿だが、持ち前の天真爛漫がとても魅力的な少女である。そんなエリーゼも魔法で雑兵を吹き飛ばしながらカミラについていった。

「このあたりは全部片付いたかしら…！」

倒れ伏す雑兵達をしり目に妖艶な仕草であたりを見回すカミラ。元々ここは離れの砦なので敵の数はそう多くないのは分かっていた。だからこそエリーゼと二人で制圧できたのだ。

「さすがおねえちゃんだね、…あれ？まだこっちに続いでるみたい」

エリーゼが指さす先にはまだ通路があった。

「そうね「応確認をしてから戻ることにはしましょうか」

こうしてカミラとエリーゼは揃って通路に踏み出した。
その瞬間魔術トラップが発動した！

「ひい、ひい、もう行つたかな…」

戦いが始まり少しの時間がたつた砦の中。
臆病な男兵士が一人隠れていた。
敵軍が攻めてきたという知らせから間もなくして、敵将の王女姉妹が男兵士がいたフロアに乗り込んできたのだ。そしてあつという間に壊滅させられた。

この男は即座に隠れて、身体を震わせながら事が収まるのを待っていたのだ。

「それにしてもあの王女姉妹、美しかったなあ…」

こんな状況だが脳裏によぎるのは彼女達の容姿だ。しかも王女ときた。
好き勝手できたらどんなにいいだろうか。

でもいつまでも隠れている訳にはいかない。

男は意を決してその場から動いた。

そして彼は信じられないものを見てしまった。

先ほどまで凛々しく戦場に君臨していた王女姉妹が、
近寄ることすらできなかつた存在が、
無様に下半身を丸出しにしながら壁にめり込んでいたのだ。

衝撃で失神してしまったのだろう、時折ピクピクと痙攣し、失禁の跡が生々しく残っている。

「な……なんで…、あつ！もしかして」

男は思い出した。珍しい魔術トラップがあると仲間内で盛り上がり遊びで仕掛けていたのだ。
それにまんまと王女姉妹は引っかかってしまった。

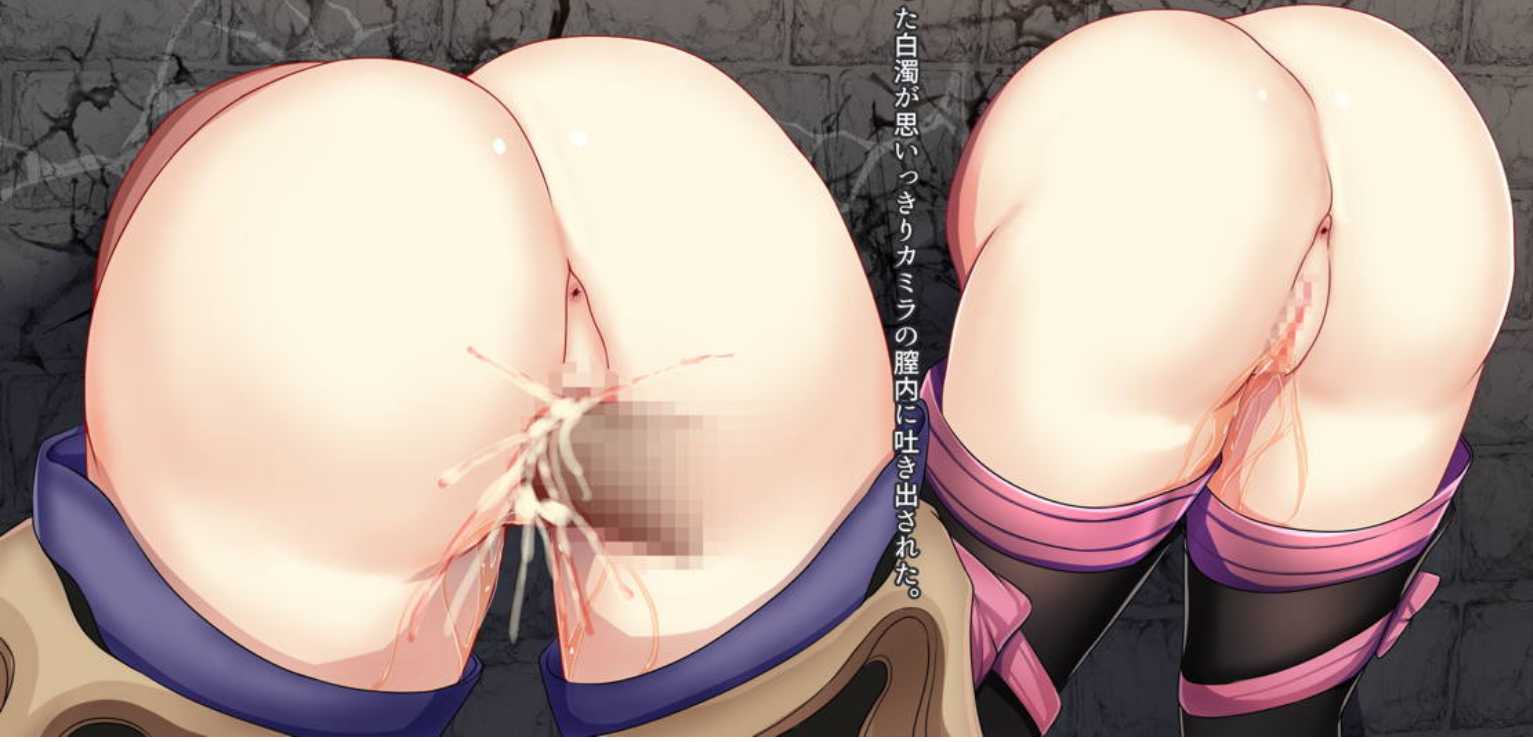


手の届かない存在の無様な尻。
男が情欲を我慢できるはずもなく、その剥き出しの秘部を味わおうと即座に行動を
起こした。

まず姉カミラの方を愉しもうと挿入する。必死に腰を打ち付け、パンパンと肉がぶつかり
あう音が岩内に響く。



そして濃くドロドロと濁った白濁が思いつきりカミラの膣内に吐き出された。



カミラに出し終わった後すぐに男はエリーゼの秘部に狙いを定め挿入した。
姉とは違う感触を楽しむ男。



そしてカメラと同じようにエリーゼの膣内にもあふれるほど射精をする。



男は満足してモノを引き抜く。
王女姉妹は相変わらず身体をビクビクと痙攣させていた。
そうしていると、致命傷を免れ気絶していただけの兵達が次々と起き上がり始めた。



しばらくして本城を攻略していた味方部隊が、敵兵士が撤退してもぬけの殻となった
離れの砦にやってきた。姿を見せないエリーゼとカミラを探しに来たのだ。
そして味方部隊が発見したのは、二つの穴から白濁とした液体を噴出しながら痙攣
する無様な二人の姿だった。

